

【基本施策の目的】






市民の農業に対する理解を深めるとともに、安定した農業経営と農業生産基盤の維持・向上を図り、優良な農地を保全します。

【基本施策の今後の優先度】

中	基本施策の指標値は基本的に横ばいであるものの、農地に関しては、食糧自給の問題や、雑草や害虫などへの対策が必要な面があるものの、中長期的な観点からは、防災、環境などの農地が有する多面的な機能を創出する面もあり、また、耕作放棄地は本市の農地全体1%程度である。 しかし、当面は現状の取り組みをしっかりと進めていく予定であり、同一分野内における他の基本施策との比較の結果、「中」と判断した。
---	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【指標の分析と今後の対応】

指標	単位	区分	基準値	H26度	H27度	H28度	方向性との整合性とその要因、実績の増減の要因、今後の見通し(予測)	今後の対応	
農家1戸あたり生産農業販売実績額	千円	実績	263	200	163	179	米価(農協買上げ額)の下落により、稲作農家の販売額は低下していたが、28年度は若干、実績があがった。しかしながら、農家の高齢化、後継者不足が続いているため、今後も生産規模は減少の傾向にあると考えられる。	農業者を取り巻く環境や状況を調査・研究し、生産規模の改善に努める。	
		目指す方向性	↑						
耕作放棄地の面積	ha	実績	13	15	16	14	農業者の高齢化と後継者不足により、自作不能農地が増加している。市内の農業の担い手(オベ)に農地を集約しているものの、増加傾向はつづくと考えている。	農地利用最適化推進委員を設置し委員の現場活動を行うことにより農地の利用最適化を進め遊休農地の防止、解消などに対応をしていく。	
		目指す方向性	↓						
展開方向	指標	単位	区分	基準値	H26度	H27度	H28度	方向性との整合性とその要因、実績の増減の要因、今後の見通し(予測)	事務事業等の見直し内容
1 農業経営の安定化を支援します	新規農業就業者数(累計)	人	実績	1	1	1	1	新規に農業を就業しようとする者は、農地の確保や農作業機器の調達が課題である。そのため、新規農業就業者の確保のためには、農業の魅力を伝えるとともに、補助事業の周知が必要である。	新規農業就業者に対する農業の魅力のPRを図るとともに、補助事業の情報周知に努める。また、状況を調査・研究していく。
			目指す方向性	↑					
	認定農業者数	人	実績	21	21	22	24	今後は、市内農業者に限らず市外の農業者に対しても積極的に認定を勧め、地域の担い手を増やしていく考えである。	今後も、認定農業者に対する補助事業の情報周知に努めるなど、地域の担い手の増を図っていく。
			目指す方向性	↑					

展開方向	指標	単位	区分	基準値	H26度	H27度	H28度	方向性との整合性とその要因、実績の増減の要因、今後の見通し(予測)	事務事業等の見直し内容
2 農業生産基盤の整備を推進します	かんがい用施設整備の受益面積	ha	実績	19 (H26年度)		19	19	かんがい用施設整備による受益面積は、現在パイプラインにより約10haが試験的運用を行っているが、現在問題点の洗出しを行っているが、これは本格運用に向けての取組みであり、農業用用水の水質確保及び用排兼用水路の機能分離による溢水対策については順調に推移しているものと思われる。	今後は、農業施設の老朽化対策のための事業費の増加が見込まれ、計画的な改修が必要となる。さらに、試験運用による問題点を洗い出しそれに対する対策を行い、早期の全面運用を目指すとともに、受益面積の拡大を図る。
			目指す方向性						
3 地産地消の環境づくりを推進します	身近な地域で採れた農産物を食べるように心掛けている市民の割合	%	実績	52.5	50.9	51.0	51.0	地元農産物はJAグリーンセンターやファーマーズなどの直売所で購入する機会が増えたものの、地元生産農家の高齢化や減少により、広く市民への波及までは及んでいない現状で、今後、野菜、果樹など数量の確保が課題と考える。	地元生産農家との連携を密にし、今後の野菜・果樹の確保に努める。
			目指す方向性						
	地産地消をテーマとしたイベントや催し物への参加者数	人	実績	23,000	43,000	40,000	40,000	地元農産物を広く紹介するため、いきいきこまきを市民会館にて開催し、JAと連携し農産物の販売ブースを設営し、町部での啓発を行っているが、農産物出品数の減少するなか、集客力を維持・向上するイベントの創設が課題と考える。	イベントの実施に伴いポスター掲示やホームページ、広報等の周知方法の充実に努めるなど、集客の増を図っていく。
			目指す方向性						
4 農業に触れあえる機会を充実します	市民菜園の利用面積	㎡	実績	3,110.5 (H25年度)	3,895.5	3,579.0	2,977.5	利用者の高齢化が進み利用率は低下しているものの、菜園利用を通じて地域農業への理解を深めてもらうためにも今後も継続していく。	市民菜園については、広く周知することにより、農業への関心を高め、利用者拡大に努める。
			目指す方向性						
	農業体験事業の参加者数	人	実績	103	156	101	74	農業体験を通じ知識・技能を習得することにより、就農への意欲を醸成し新規就農に繋げていくため、今後も継続していく。	将来的に出荷ができる農業者を育成するため行っている事業の運営方法等の見直しを検討する。
			目指す方向性						

経常事業	削減に関する具体的な考え方	展開方向1	鳥獣等関係対策事業については、業務用備品購入費を縮小し、削減する。
		展開方向2	現状の事業を引き続きしっかりと進めていく。
		展開方向3	食育推進事業については、需用費を減することにより縮小する。
		展開方向4	将来的に出荷ができる農業者を育成するため年間を通じて行っている農業体験事業の運営方法等の見直しを検討し委託費を削減する。
実施計画事業	資源投入の考え方	展開方向1	経常事業を引き続きしっかりと進めていく。
		展開方向2	経常事業を引き続きしっかりと進めていく。
		展開方向3	経常事業を引き続きしっかりと進めていく。
		展開方向4	(仮称)農業公園管理事業については、今後の事業用地の利活用に備え、適正な管理地の維持が必要であるため、来年度も前年度並みの資源の投入が必要であると判断している。